

日本国内と世界市場との連動性 認定資格が仕事を運ぶ時代がやってくる

今回は、認定資格の必要性について話してきました。今号では、世界市場に触れながら、認定資格取得のメリットについて、より深く掘り下げていきます。

いきなりですが、経営者の方は、あなたの会社が他社に負けないと自信がもてる項目を3つ挙げてください。職人の方は、同業者に引けをとらない、1番誇れる技術または知識を1つ挙げてください。今回は、これらの答えを頭の片隅に置いて、読み進めてもらえたらと思います。

自社の強みを具体的に示す認定資格

世界基準のマーキングフィルム施工に関する認定資格は大きく分けて、サイン（平面と2次曲面）と、カーラッピングの内容に分かれます。

前者は、アメリカ 3M で受講できるエンドースト、プリファード資格の一部と、日本で受験可能な HEXIS シルバー認定が該当します。これらは、インクジェットの分割貼りを、さまざまな壁面、二次曲面に素早く貼る技術を求められ、最低限、平面貼りをドライ施工で正確に貼れなければ合格できません。

後者は、CWI 認定、3M プリファード認定の大半とナイフレスインストナー認定、そして HEXIS ゴールド認定になります。

現在、日本では、3M 3Star、4Star 認定制度を受講できます。それでも、海外で行なっている認定制度とは大きく異なるため、世界基準で職人の技術を客観的に判断できるものだとは言いがたいのが現状です。（2019 年中に日本で 3M 認定試験が世界基準の内容に変更になる予定）

前回でも、海外で仕事を獲得するために、認定資格の必要性について触れました。私感では、エアフリーフィルムで施工するカーラッピングより、ベタ



3M アメリカ セントポール本社
ナイフレスインストナー認定講習会の模様

糊のサイン用フィルムを、ドライで平面にきれいに早く貼る方が難しく、職人に高い技術が求められると思います。来る日も来る日も、室内化粧フィルムやウィンドウフィルムを貼り続けている日本の職人は、間違いなくその道のプロフェッショナルであり、独自のノウハウを持っていると思います。

しかしながら、ひとたび国外に出してしまうと、これまでの実績や経験は、全て水泡に帰してしまうのです。そうしないために、国際基準の認定資格を取得する必要があります。

優れた職人である皆さんには、今までの経験から、これならだれにも負けないと自慢が出来る技術があると思います。これまでは、勤め先やクライアントから信頼を受け、継続的な仕事につながっていたはずですが。しかし厳しい言い方をすれば、国外で仕事を得るためには、日本で得た信頼など意味がありません。

その自信に、何の根拠があるのか？ 他社に負けない理由は？ それを判断してくれるのが、認定資格です。

プロフェッショナルに需要がある理由

一昔前の看板屋と言われた職業は、看板書き、ペンキ塗り、木工大工、鉄骨加工、樹脂加工など多彩な業務を請け負い、「うちの会社は何でもできる」が自慢であり売り文句でした。

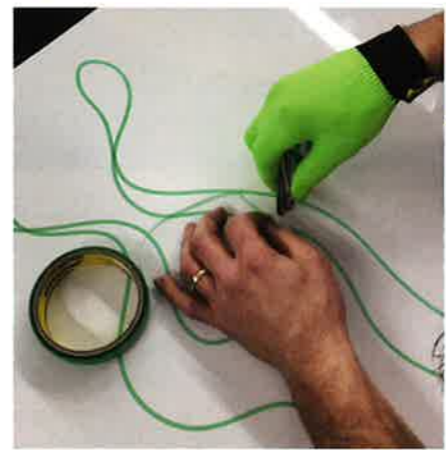
しかし、現在の海外市場では、日本以上に多様化が進んでおり、分業が主流です。何かひとつを突出させ、得意分野となる業務を持つ企業が伸びており、需要を得ています。

2000 年頃から始まった IT 革命によって、だれでも同じ情報を自宅に居ながら得られるようになり、ある意味プロとは何か？ を問われる時代になりました。今後、誰でも簡単に施工できる素材も増えていく中、職人が世界で共通して少なくなっていくのが予見されています。その先に待っているのは、職人の技量不足です。それを防ぐため、長年のノウハウを後世に残すセミナーや技術講習会などが、各国で盛んに行われています。それほど、職人の持っている技術は貴重なのです。今後の仕事により生かしていくためには、1 点の技術に特化

SAMURAI WRAPPER



ラッピング技術を競う大会「WRAPSCON WRAP OLYMPICS」(左:2018年、上:17年)の競技種目であるブリックウォールラッピングは、3M エンドースト資格の試験項目でもある。



ナイフレスインストナー認定試験項目中のデザインカット貼り

した、自社でしかできないプロフェッショナルをいかに作っていくかという視点が大切になってきます。

日本人は器用な方が多いです。私は何でも出来る方を尊敬します。そして、少し前の看板屋の姿を、誇りに思います。「何でもできる」は、ひとつずつノウハウを積み重ねてきた努力の証であるからです。しかし、その器用さがアダとなり、本来のプロフェッショナルとはかけ離れた器用貧乏になってしまえば、本末転倒です。

グローバル化が進む昨今、自社の強

みは何か、今一度考えてみてはいかがでしょうか。

今後、劇的に変化していくであろう私たちの業界で、少しでも多くの職人に大きな自信を持ってもらいたい。優れた部分を自己認識し、世界市場でも通用する知識、技術、対応力を有し、常に新たな学びを大切にできる職人が 1 人でも多く育ってほしい。その思いから、今回は認定資格の重要性を改めて紹介させていただきました。

今回は、世界の主要都市と日本の施工単価についてについて説明します。

苅谷 伊
(かりや ただし)
経歴

1969年 2月 3日生まれ 50歳
89年大学中退後、父の看板屋を手伝いはじめる。07年よりカーラッピング専門の PPF 事業部を立ち上げる。ラッピング分野初の国内団体となる日本カーラッピング協会の設立にも奔走し、17年 1月に初代会長に就任する。主にレース車両や自動車メーカーのデモカーのラッピングを手掛ける。

主なラッピングコンテスト

- 2017年 (タイ・バンコク)
FESPA ASIA WRAP MASTERS CUP 3位
- 2017年 (アメリカ・ラスベガス)
SEMA SHOW HEXIS WRAPPING BATTLE 2位
- 2018年 (ドイツ・ベルリン)
FESPA WRLD WRAP MASTERS 4位
- 2018年 (アメリカ・ロングビーチ)
WRAP OLYMPICS 優勝
- 2018年 (アメリカ・ラスベガス)
SEMA SHOW HEXIS WRAPPING BATTLE 3位
- 2019年 (ドイツ・ミュンヘン)
World Wrap Masters Europe 8位

SNS

フェイスブック (苅谷 伊)
Instagram @designlab.inc.wrap_japan
Twitter @tadashikariya

株式会社デザインラボ PPF 事業部

〒501-6023
岐阜県各務原市川島小網町 2150-24
TEL/FAX : 0586-89-2332

〒243-0021
神奈川県厚木市岡田 3122 apr サービスセンター内
TEL : 046-258-6531 FAX : 046-228-7636